

新銀行東京に清算 以外の道はない

醍 醐 聰

本稿は未定稿のため、引用、転載等をされる場合は事前に筆者までご連絡をお願いします。

今日の報告の4つの論点

1. 新銀行は設立の目的とされた中小企業向け融資行としての役割を果たしてきたか？
2. 開業初の黒字を計上した2009年度上半期の決算は新銀行の再建への第一歩なのか？
3. 東京都に求められる金融面での中小企業支援策とは？
4. 東京都に新銀行の破たんの責任はないのか？

表1 新銀行東京の融資件数と融資実績

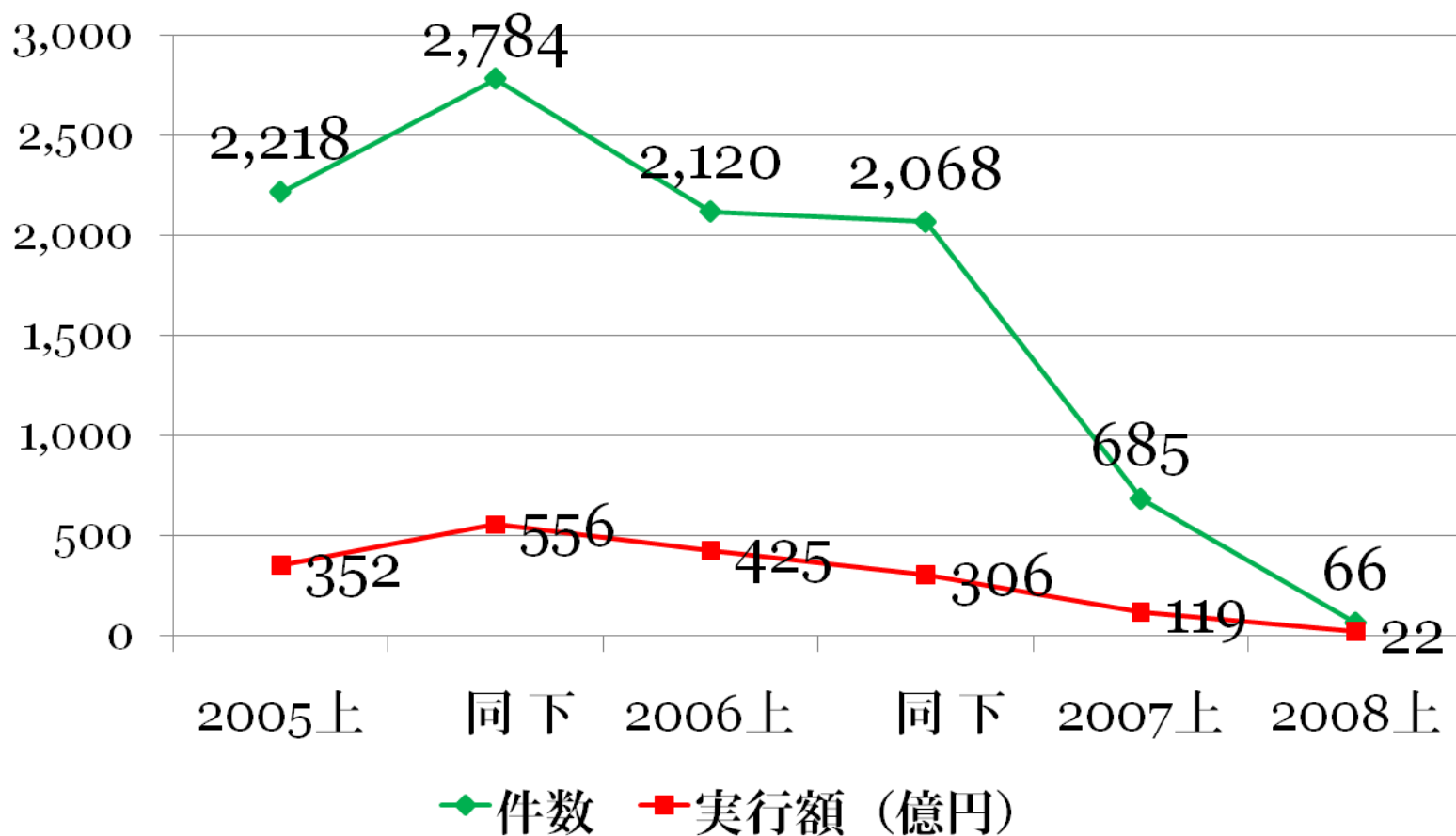


表2 預貸率の推移

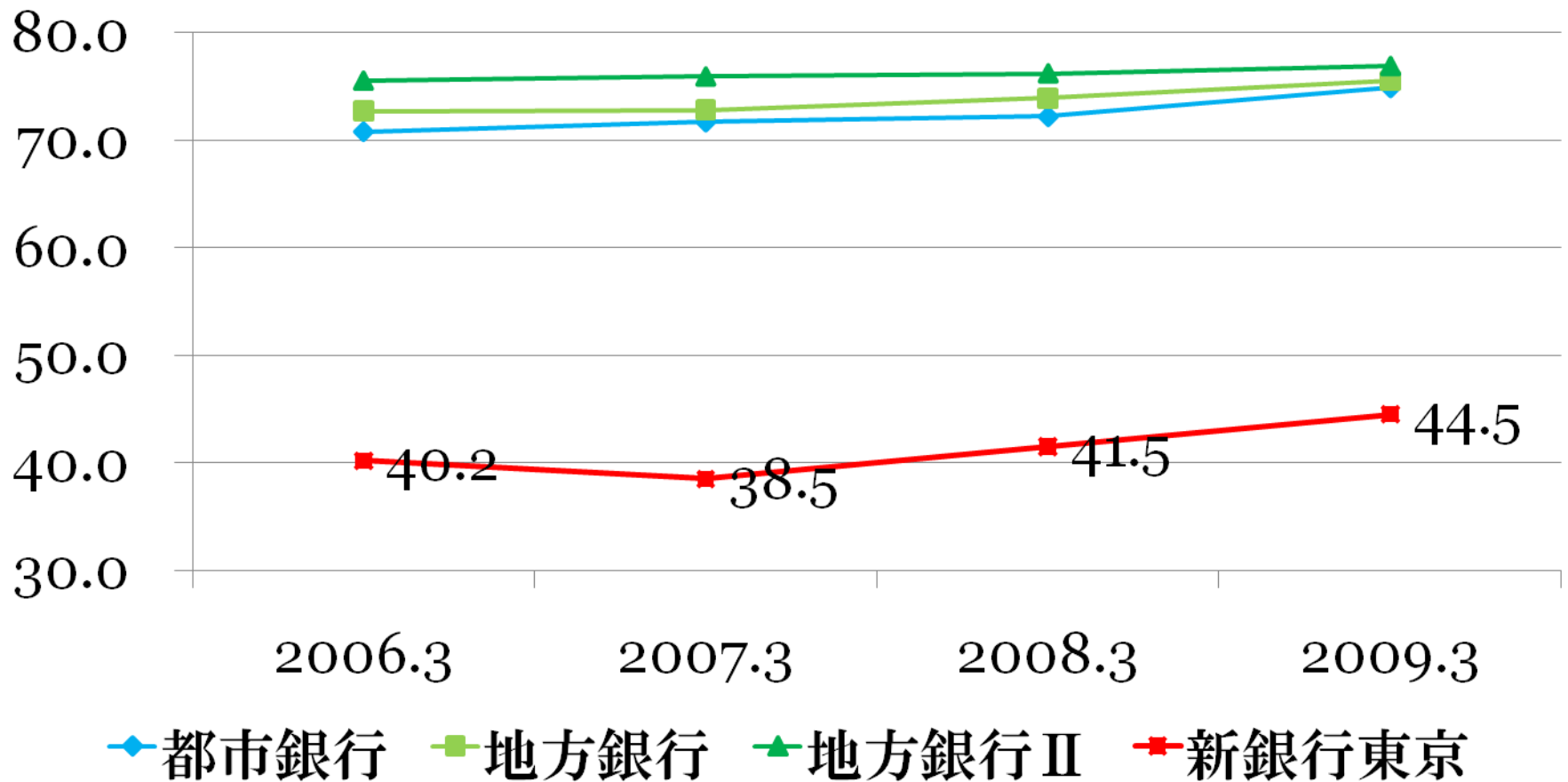
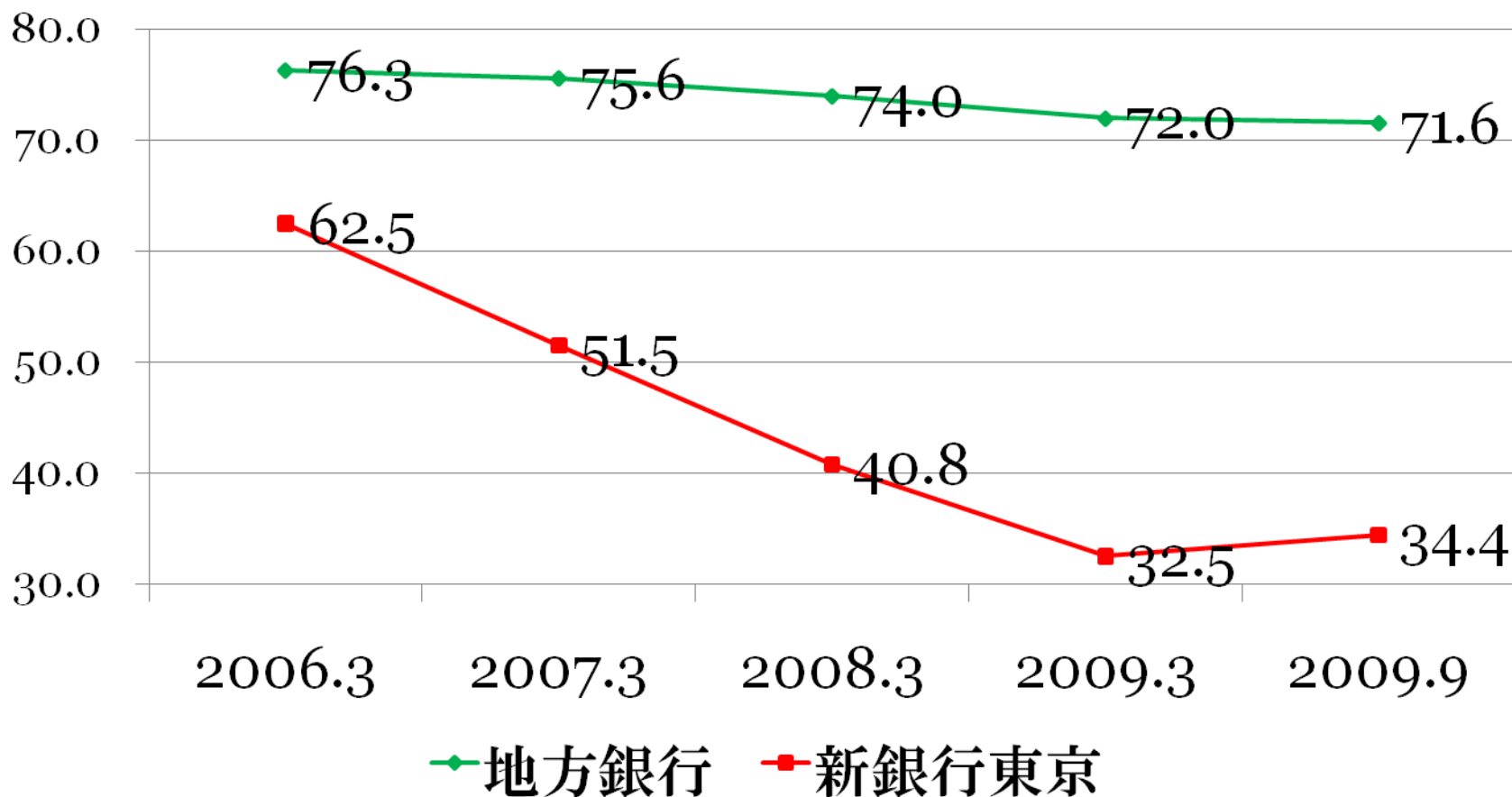


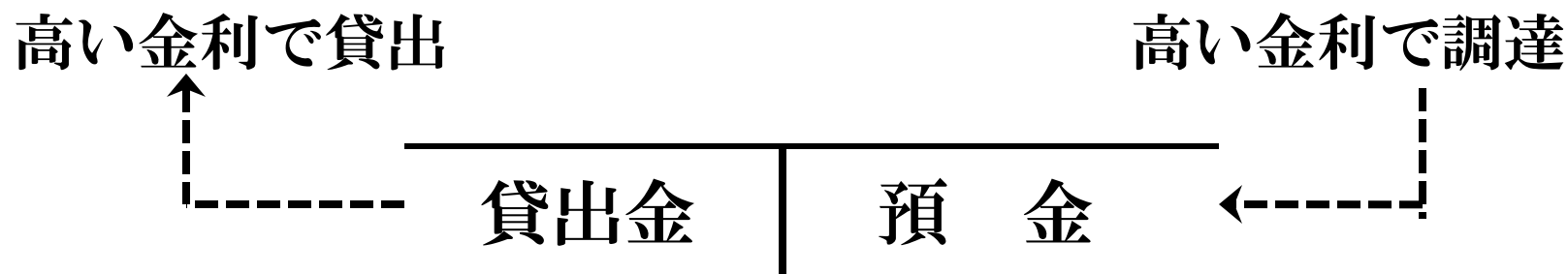
表3 中小企業向け融資の割合



新銀行の預金・貸出金の金利構造

大手行：2年物 2～3%
新銀行：2年物 5～7%

2006年5月～9月（5年定期）
国内行平均：0.51～0.79%
新銀行：1.7%



貸出金利 = 預金金利 + リスク・プレミアム + 利鞘

表4 再建計画の概要

(億円)

年 度	2008	2009	2010	2011
貸出金	728	626	447	404
預 金	3,672	1,974	573	200
業務収益	67	60	51	40
業務費用・経費	137	74	58	33
貸倒引当金戻入	143	67	38	16
経常利益	▲126	▲19	0	8

表5 開業以来初の黒字化の実態

(単位：百万円)

	2008.9期	2009.9期
業務粗利益	3,117	1,509
貸倒引当金繰入	▲6,823	0
貸倒引当金戻入	0	2,073
税引前純利益	▲7,016	1,071

貸倒引当金操作が意味したこと（1）

1. 今後の貸倒れ見込みは適正か？

* 不良債権比率の上昇

* 破産・更生債権の増加（+16億円）

2. 貸倒引当金取り崩しによる黒字決算は喜ばしいことなのか？

* コア業務である貸出を縮小してしか、業績回復を（演出）できないのは自己の存在否定。

* これでは、再建計画ではなく、清算計画

貸倒引当金操作が意味したこと（2）

3. 都民を欺く再建計画の自己矛盾（二枚舌）

* 400億円の追加出資の根拠を説明する時は：

「貸倒引当金ではカバーできない信用リスクに備えるために280億円の資本増強が必要」

* 業績回復の収益計画を立てる時は：

不要となる貸倒引当金の取り崩しで黒字化達成

表6 有価証券関連データの推移 (億円)

	2006/3	2008/3	2009/9
貸出金残高	1,744	1,895	1,152
有価証券投資残高	1,613	1,995	2,434
(資産総額に占める割合)	31.8%	40.4	57.1%
預証率：新銀行東京	50.4%	53.1%	66.9%
預証率：地方銀行	32.0%	28.3%	22.1%

表7 貸出金より低い有価証券運用利回り

